



8. 高松港・坂出港長期構想の実現に向けて

財政状況の厳しい中、港湾施設の整備には莫大な費用と年月が必要であり、各々の港で多様なニーズの全てに対応することは困難な状況です。

そこで、両港が隣接した重要港湾であることを踏まえ、それぞれの港の得意分野を伸ばし、苦手分野を補う方向で役割分担と連携を図り、効果的・効率的な長期構想とするため、異なる港湾管理者が一つの事務局となり、「高松港・坂出港長期構想検討委員会」を設置しました。

そして、委員会での検討の結果、高松港では、コンテナ貨物や大型クルーズ客船の受入れ機能強化、フェリー岸壁の機能強化を、坂出港では、大型貨物船の受入れ機能強化や定期RORO船航路の維持・拡充、エネルギー拠点としての機能強化を担うこととし、役割分担により不足する機能は、双方の港が連携をすることで補うことができるものと考えました。

高松港・坂出港長期構想では、高松港が果たす役割として、物流・産業面では、「アジアと繋がり、地域産業の持続的発展を支える港」、交流・賑わい面では、「海陸交通の要衝、快適で人々を惹きつける港」、安全・安心面では、「災害時の市民生活や企業活動を支える港」を、坂出港が果たす役割として、物流・産業面では、「背後企業の成長を支え、競争力・利便性の高い港」、交流・賑わい面では、「市民が集い、観光客を呼び込む魅力ある港」、安全・安心面では、「災害時の市民生活や企業活動を支える港」を目指し、各々の港で6つの目指すべき方向性とそれを実現するための取組みとして、ハード・ソフトの適切な組み合わせによる様々な施策を示しました。

まずは、高松港港湾計画と坂出港港湾計画にこれらの内容を反映させ、次のことに留意しつつ、長期構想の実現に向けて取組みを進めてまいります。

➤ 計画の見直し

社会経済情勢の変化や地域の実情等に応じた計画の見直しを適宜行います。

➤ 民間活力の導入

厳しい財政状況の中、効果的・効率的な社会資本整備の推進に向けて取り組むとともに、民間事業者等における新たな事業機会の創出や投資の喚起を行います。

➤ 関係者との連携

港湾・海岸施設は、物流・人流拠点に位置するとともに、高潮・津波等の災害から人命・財産を直接防護する重要な社会基盤であり、関係者は多岐にわたっています。そのような中「港」に求められる役割を果たすため、関係者と連携して、効果的・効率的に施策を展開していきます。

図表 8-1 高松港・坂出港の役割分担と連携のイメージ

